

岡山県郷土文化財団

クラシック コンサート

CONCERT



くまやまふれあいセンター開館1周年記念

出演 倉敷管弦楽団

指揮 菊池 東

日時 **1992年2月23日(日)**
午後1時30分開場 午後2時開演

会場 **くまやまふれあいセンター**

主催 岡山県郷土文化財団・熊山町
(財)くまやまふれあいセンター

曲 目

I モーツァルト作曲

交響曲第40番ト短調K.550

II ロッシーニ作曲

歌劇「セビリアの理髪師」序曲

————— 休 憩(15分) —————

III ビゼー作曲

「カルメン」組曲

曲 目 解 説

I モーツァルト作曲(1756~1791) 交響曲第40番ト短調 K.550

モーツァルトが32才の夏、2ヶ月足らずという極めて短い期間のうちに一気に書きあげた第39番・第40番・第41番の交響曲を三大交響曲と呼ばれていますが、晩年のひどくみじめな生活の中から生まれ出たものであるにもかかわらず、不滅の名作群として、音楽史上に高く聳え立っている名曲です。

しかも、この3曲は、いずれもまったく異質の感情に貫かれ、独自のスタイルの中に音楽美を競い合っているように思われます。この第40番の交響曲は、続く第41番(ジュピター)の牡麗な輝かしい響きとは対比的に、憂いや悲しみを秘めた、いたいたしいまでの美しさに支配された交響曲です。

曲は四つの楽章からなりたっています。

II ロッシーニ作曲(1792~1868) 歌劇「セビリアの理髪師」序曲

物語の粗筋は、美しい娘ロジーナに恋するアルマヴィーア伯爵が、理髪師フィガロに恋の手助けを頼みます。ロジーナには、後見人に欲の深い医師のバルトロがついており、彼も財産目当てに彼女との結婚を望んでいます。伯爵は、いろいろと身分を偽ってロジーナに近づき、フィガロの手助けで駆け落ちの約束までしますが、二人の様子を訝ったバルトロに見破られてしまいます。バルトロはロジーナに、あの二人は、お前を口説いて伯爵の愛妾にするつもりだったと説明し、それを信じたロジーナはバルトロとの結婚を承諾してしまいます。真夜中に再び伯爵とフィガロがロジーナの所へ忍んできますが、私を伯爵に売るつもりの人などと一緒に逃げられませんかとなる彼女に、伯爵は自分の身分を明かし、伯爵としてではなく、私個人を愛してくれるかどうかを知りたかった、と打ち明け、彼女の誤解も解けます。そこへ入ってきたバルトロに、伯爵は彼女の財産は全て与えるから、彼女を妻にいただきたいと申し入れます。初めから財産目当てのバルトロは、しぶしぶながら承知し、すべて丸く収まって幕となる歌劇で、その序曲は、演奏会でしばしば演奏される馴染み深い名曲です。

III ビゼー作曲(1838~1875) 「カルメン」組曲

この組曲は、ビゼーの代表作である歌劇「カルメン」の前奏曲と間奏曲などをまとめたもので、作曲者ビゼーの意図ではなかったにしても、それぞれが個性的で、激しい対象を示しながら全体としては調和を保っており、人気の高い曲です。

劇は、自由奔放なジプシー娘カルメンと、カルメンに魅せられた龍騎兵ドン・ホセとの恋愛悲劇で、ホセは、カルメンのために密輸入者の仲間入りまでしますが、カルメンが闘牛士エスカミリオに心を移し、ホセの心情を無視するので、ホセは遂に激怒してカルメンを刺し殺すという筋です。

(楽譜はトヨタミュージックライブラリー提供)

